

令和6年度 嬉野市教育委員会 活動状況評価シート

教育委員会の活動状況						
具体的活動		教育委員会における自己評価				
		評価	項 目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
具体的 施策	(1)教育長としての役割等について	A	・総合教育会議について、市長部局へ開催を依頼する。また、市長と教育長・教育委員との意見交換の場を設定し、意見交換を行う。 ・本市教育推進のため、教育政策等を立案し実践化する。 ・市長に対し、教育行政の課題等について情報提供を行う。 ・教育委員へ教育行政施策の積極的提言と周知の徹底を行う。 ・大野原小中学校の「留学・通学」制度については、質の高い教育実践校であることを県外の市町に広報する。特に大村市教育委員会との意見交換会を年間1回実施し、相互の教育行政全般についての高揚を図る。	・総合教育会議の開催には至らなかったが、教育大綱は策定され、教育政策の指針が確立された。 ・市長に対して「学力向上と教育に関する課題」について、常に最新の情報を提供している。 ・教育委員に対して、積極的に教育に関する情報を提供している。 ・大野原小中学校のPRについて11月に開催された大村市教育委員会との意見交換会で行うことができた。また、相互の教育行政全般についての高揚を図ることができた。	・総合教育会議については市長部局に開催依頼を行い、教育政策の指針を教育委員会と市長部局で共有する必要がある。 ・大野原小中学校の留学においては、関係部局と連携し、移住や定住、通学の負担軽減を支援する必要がある。	・総合教育会議の実践化、教育政策の指針共有を市長部局と連携して取り組む。 ・大野原小中学校の留学に関しては、関係部局と調整・協議を行う。
	(2)教育委員としての役割について	A	・教育大綱作成について、教育委員としての立場で意見を述べる。 ・市長と教育長・教育委員との意見交換の場を設定し、教育課題などについて意見交換を行う。 ・教育行政施策全般についての問題点や課題を指摘し、自分の経験と知識を活かして教育に関する問題について客観的な視点から考察し教育行政全般についてチェックを行う。 ・研修会等を通じ、教育行政に対する知見を深め、委員としての専門性を習熟し、資質と能力の向上に努める。 ・教育委員と社会教育委員との合同懇談会を実施して、それぞれの立場からの意見を交わすことにより生涯学習の在り方や方向性について協議し教育行政全般についての方向性を確立する。	・今回策定された「嬉野市教育大綱」に従って、教育委員としての立場で活躍している。 ・定例教育委員会議などで提案された施策に関して、教育委員が自らの意見や考えを表明することができている。 ・教育委員研修会等に参加することにより教育課題を理解し、教育委員としての資質と能力の向上に努めることができた。 ・社会教育委員との合同懇談会については令和7年2月を予定している。 ・大村市教育委員会との意見交換会では、お互いの課題や問題点について情報を共有することで、見識を深めることができた。	・市長・教育長・教育委員との意見交換会のなかで、教育委員として意見を述べることを課題とし、その達成に努める。 ・社会教育委員との合同懇談会を年2回程度開催することで情報共有を図りたい。	・市長との意見交換会の実施に向けて、市長部局との連携に取り組む。 ・担当課と密に連携・調整を行い、合同懇談会を開催することで、双方の情報共有を図る。
	(3)定例教育委員会会議の公開性の拡大と充実	B	・定例教育委員会への傍聴を、感染症の状況を注視しながら次のように拡大し、リモートでの傍聴については研究してみる。 ①社会教育委員の傍聴 ②市役所職員(新規採用職員を含む。)の傍聴 ③教職員(主幹・指導教諭)の傍聴 ・教育委員会終了後に傍聴者から感想及び教育課題についての意見を求め、必要により意見交換をする。	・社会教育委員や市役所職員の傍聴はなかったものの、市議会議員や学校で開催することにより教職員の傍聴があった。 ・広報・広聴課の会議録作成ソフトの活用、職員を書記として配置したことにより、早期に会議録のホームページ掲載を行い公開することができた。	・リモートでの傍聴について研究、取り組みが遅れている。	・社会教育委員の早期の傍聴に取り組む。市職員の傍聴については各人の業務状況も把握しながら進めて行く。 ・リモートでの傍聴について研究を継続する。
	(4)教育委員への迅速な教育情報の提供や会議の招集	B	・教育委員が適切な指導や支援を行えるよう、学校教育・社会教育並びに教育総務に関する情報を年間を通して迅速に提供する。 ・教育委員会会議を定例的に開催し、市役所以外の公共施設等でも開催する。 ・オンライン(ICT)を活用した会議開催の検討を進める。	・会議は定期に開催され、その中で予算や補正予算に関する情報が共有された。また、一般質問事項についても説明を行った。また、社会教育分野においても事業計画を策定し情報提供を行った。このことにより、各分野の情報共有と理解を深めることができた。 ・教育委員会学校訪問の日程と合わせ、定例教育委員会議を学校で開催した(2回)	・教育委員が効果的な意思決定を行うためには、教育委員会が取り組む課題に関する情報を、国や県の動向を含めて優先的に提供することが求められる。 ・オンライン(ICT)の検討が進展していない。	・緊急案件に対しては、迅速な情報提供を図るため、持ち回りや電話での事前承認を行い、対応に努めた。 ・効果的な会議体制の構築を目指すため、情報部局のサポートを受けつつ、リモート会議の実施に向けた検討を前向きに推進する。
	(5)教育委員会と学校の協働意識高揚と課題の共有化	A	・学校訪問での「学校課題に関する意見交換」をより充実させることで学校現場の課題等を把握し、学校教育の改善を目指す。 ・「学校課題に関する意見交換会」での教育現場の声を市の行政に反映させる。 ・「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」で教職員との意見交換を実施し、教育現場の声を反映した教育行政の推進を図る。 ・校長先生の知恵袋事業のプレゼンテーションへの参加や、成果発表会に出席し、学校の自立的経営について意見を述べる。	・教育委員が学校訪問を行い、現場の意見交換を充実させたことで、学校の課題を詳細に把握し、具体的な助言を提供することができた。訪問を通じて教育現場の現状理解が深まった。 ・校長先生の知恵袋事業のプレゼンテーションに参加することで、校長が実践する独自の学校経営について、より深く理解することができた。校長の特色あるアプローチや教育理念が具体的に紹介され、その効果や影響についても詳しく知ることができた。	・教育委員が学校現場の状況を的確に把握し、適切な情報共有と効果的な指導や支援を提供するためには、現場の情報を正確に伝えるための体制が必要。このことにより、現場のニーズを理解し教育現場の課題に対する解決策の精度を高めることができる。 ・校長先生の知恵袋事業は独自性のある取り組みであり、限られた予算の中でその特徴を最大限に活かした学校経営を充実させることが求められる。限られた資源を有効活用し、創意工夫を凝らしながら、学校運営の質を向上させるための取り組みが必要。	・効果的な意見交換体制の構築を目指すため、情報部局のサポートを受けつつ、リモート会議の実施に向けた検討を前向きに推進する。 ・教育現場の課題に応じて、他の部局からの支援を受けられるように調整を進める。 ・校長先生の知恵袋事業を今後も継続し、その成果をさらに発展させるために、更なる予算の獲得にも努める。限られた資源を最大限に活用し、持続的な成長を目指して行く。



評価委員からの指摘事項・意見		評価結果(段階)	
○新たに策定された嬉野市教育大綱に基づく取組の具現化を図るため、首長部局へ適時適切な情報提供や働きかけを行うとともに、教育委員会内で迅速かつ計画的に学校現場等の情報を共有し、委員の意見等を適切に踏まえた施策を立案・実施することはもとより、県境で隣接する大村市教育委員会との相互交流による意見交換や委員会会議内容の外部への適切な公開などによる望ましい緊張感の中で教育委員会が有機的、組織的に機能することで、限られた財源と資源の中で先進的で特色ある取組も行われており、他の取組と併せ昨年度以上の成果を上げることができている。 このような取組実績に加え、 ・総合教育会議開催について首長部局への継続的な働きかけ ・必要に応じた「教育委員と教職員と語る会」の開催 ・リモートでの開催による教育委員会会議の効果的かつ効率的な実施 を図ることで、更なる充実した、そして他の自治体では見られない特色ある教育委員会の活動が行えるものと考える。		A	
指摘を受けての改善点		評価4段階	
【総合教育会議開催について首長部局への継続的な働きかけ】 ・嬉野市教育大綱は策定されたものの、総合教育会議は開催に至っていないため、市長部局にその開催について引き続きお願いしていく。市長へ教育課題等について情報提供を行いつつ、市長、教育長、教育委員との意見交換の場がもてるよう働きかけていきたい。 【必要に応じた「教育委員と教職員と語る会」の開催】 ・定例教育委員会を学校で開催する際に「教育委員と教職員と語る会」を同日に開催するなどの工夫により、実現できるよう努力したい。 ・教育委員に学校現場の情報提供をきめ細かにに行い、学校に対する教育委員からの指導・支援が適切に行われるよう努めたい。 【リモートでの開催による教育委員会会議の効果的かつ効率的な実施】 ・市の情報部局の助言を得ながらリモートによる会議の実現に努めたい。		A 達成(80%以上)	
		B ほぼ達成(51～79%)	
		C やや不十分(50～21%)	
		D 不十分(20%以下)	